情報コーナー

企画展「蔵出し 屋久島」

～ 世界自然遺産登録30周年を迎えた屋久島の自然を振り返る ～

県立博物館

企画展「蔵出し 屋久島」について

博物館本館１階の企画展示室において，企画展「蔵出し 屋久島」を開催しています（令和５年11月26日まで）。

屋久島は，白神山地とともに平成５年12月に日本初の世界自然遺産に登録され，今年12月で30周年を迎えます。今回の企画展では，世界の宝である屋久島の自然をあらためて紹介するとともに，本館や外部識者が所蔵する屋久島由来の標本を蔵出しし，展示しています。

【展示会場の様子】

展示の見どころ

縄文杉の”枝”の切り株

【展示中の縄文杉の切り株（左）】

屋久杉は，標高800mを超える山地に自生し，樹齢1000年を超えるスギの名称です。人工的に植えられたスギである地杉（じすぎ）に比べ，年輪が密になり，樹脂成分が豊富にあることが特徴です。会場内ではそれがわかるように屋久杉と地杉の切り株の実物を比較し，解説していますが，実は，この屋久杉の切り株は，最大の屋久杉とされている「縄文杉」の枝から得られたものです。屋久島森林監督署から提供（貸与）され，収蔵している切り株を蔵出しし，展示しています。

屋久島に関わるゾウムシの新種

【ﾔﾏﾉｶﾐｵﾋﾞﾓﾝﾋｮｳﾀﾝｿﾞｳﾑｼ】

近年（2015年，2020年）に屋久島に関わるゾウムシの２新種（ヤクシマオビモンヒョウタンゾウムシ，ヤマノカミオビモンヒョウタンゾウムシ）が発表されました。この２種は，同属のゾウムシで，同属の２種が同所的に棲息する点で，稀な特徴をもつゾウムシです。今回，この２新種の標本を比較展示しています。

屋久島の「宝」貝

屋久島には，およそ1000種を超える海産貝類が棲息していますが，その中でも，潮間帯から浅海でみられるタカラガイは，丸みを帯びて光沢があり，陶器のような美しさから人々を魅了する貝の１つです。屋久島で棲息している34種のうち博物館で収蔵している24種を展示しています。

【展示中のタカラガイ】